

1 研究主題

命を大切に作る心をはぐくむ教育の推進

－生徒の豊かな人間性や社会性の育成のために－

2 目指す生徒像

- (1) 自らの命の大切さを自覚し、他の命も尊重しようとする心をもった生徒
- (2) お互いのよさに気づき、豊かな人間性や社会性を身に付けた生徒

3 研究実践

(1) 道徳の時間を、生徒の実態に即し、ねらいに沿った心に響くものにする。

① 道徳性検査「HUMAN」による調査・分析 ⇨ 生徒の実態把握 ⇨ 重点指導内容を決め、全体計画を見直す

1・2年次研究重点

[グループA]
 Q15生命尊重 Q13自然愛 Q14畏敬の念
 Q8思いやり・人間愛 Q24郷土愛

生命尊重と類似性が高い価値項目グループ

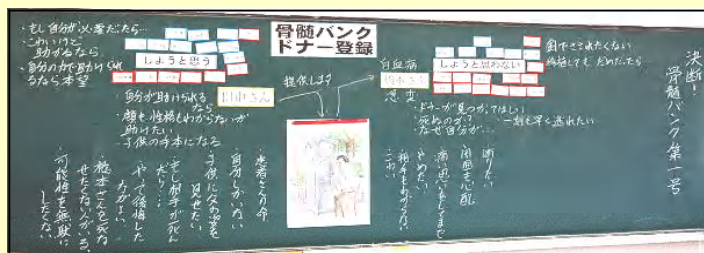
2年次の研究重点に加える

[グループB]
 Q7礼儀 Q12寛容・謙虚
 Q16人間の強さ弱さ Q22家庭愛

グループBが高まるとAが高まる

重点的
に指導

- ② 年間35時間の時間確保
- ③ 資料の選定、指導形態や指導方法等の工夫
 - ・板書、教材、教具の工夫
 - ・視聴覚教材の導入



(構造的な板書例)

・ゲストティーチャー ・ロールプレーの導入



(戦争体験を話すゲストティーチャー)

(2) 道徳の時間を中心に、全教育活動との関連を図った道徳教育の推進

- ① 安心して本音が言え、考えを出し合える学級づくりに努めた。
- ② 各教科の授業でも「生命の尊重」とかかわりのあるものを指導内容に取り入れた。
- ③ 学校行事や生徒会行事等と道徳の内容項目を関連付け、豊富な体験ができるように努めた。

4 生徒の変容(道徳性検査の結果より)

項目		平成17年7月			
		平均点	全国比		
		全校	1年	2年	3年
Aグループ	思いやり・人間愛	3.0			▼
	自然愛	3.1			▼
	畏敬の念	2.9			
	生命尊重	2.8			
	郷土愛	2.9		△	
Bグループ	礼儀	3.3	△		
	寛容・謙虚	3.3			
	人間の強さ・弱さ	3.3			
	家庭愛	3.4			

項目		平成18年7月			
		平均点	全国比		
		全校	1年	2年	3年
Aグループ	思いやり・人間愛	3.2			
	自然愛	3.2		△	
	畏敬の念	2.9			
	生命尊重	2.9		△	△
	郷土愛	3.0		△	△
Bグループ	礼儀	3.5	△	△	△
	寛容・謙虚	3.3			
	人間の強さ・弱さ	3.8			
	家庭愛	3.4			

グループA、Bの価値項目ともに評価があがっていた。
(広島大学大学院の分析結果)

△：全国平均より高い
 ▼：全国平均より低い